

『哲学の探求』第47号刊行にあたって

今年も皆様に『哲学の探求』第47号をお届けできることをうれしく思います。今回の『哲学の探求』には、2019年度「哲学若手研究者フォーラム」のテーマレクチャーにてご発表くださった先生方の2本の論文、および個人研究発表を行ってくださった方々による11本の論文、計13本の論文が掲載されています。

2019年度のフォーラム（7月13日、14日）では、42本の個人発表と1件のワークショップ、そして笠木雅史先生（名古屋大学）、村山達也先生（東北大学）をお招きした「メタ哲学」のテーマレクチャーが行なわれました。2日間で約130人の方にお越しいただき、活発な議論が交わされました。分野・年齢・所属を問わないこのような機会が、哲学研究に携わる人々、それを志す人々にさらに寄り添い、開かれたものとして続いていくことを心から願うものです。

2020年度の大会は、もとより東京オリンピックとの兼ね合いで9月に開催をずらしていたところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止、および直前での大会中止を回避するという観点から、オンライン上での開催予定となりました。遅ればせながらこの度の感染症により様々な苦難に見舞われた方々に、お見舞いを申し上げます。またそんななかでも、現実を直視しつつ、深い問いによってそれに応ずるような哲学がこのフォーラムから生い育つことを、あらためて願わざるをえません。大会はこれまで毎年東京で開催されており、参加には地域的な制限もありました。オンラインでの開催はひょっとすると、従来と異なる何かをもたらしてくれるかもしれません。形態はいかにあれ「続く」ということ、そしてそこに「集まる」ということが重要な意味をもつと信じています。

最後になりましたが、様々な形で雑誌の編集作業に携わってくださった皆様に深く御礼を申し上げます。そして『哲学の探求』を通して様々な方が繋がり、それが今後の哲学研究の発展に繋がることを、運営委員一同願っております。

2019年度哲学若手研究者フォーラム運営委員・総務担当 宮田晃碩